

大腸菌性乳房炎にセファメジンを使うと牛がダメになる!?

急にエサを食べなくなった牛の乳房がはれて乳汁は水っぽくなり、体温を測ってみたら40℃前後だった・・・という場合は、すでに重症な状態まで進行してしまった大腸菌群による乳房炎の可能性があります。そんな時、急いでセファメジンの乳房炎軟膏を入れていませんか？これまでではそれがよい方法だとされていましたが、実はかえって牛をダメにしているのではないかと考えられるようになってきました。

その理由は、大腸菌群が殺菌された時などに出す「エンドトキシン」という毒が全身に回って悪さをしていたことがわかってきたからです。つまり、殺菌力の強いセファメジンのような薬を使用すると、大量の大腸菌群が一気に殺菌され、乳房内に大量のエンドトキシンが発生してしまいます。それが全身に回ることで症状が悪化し、ショックや起立不能といった回復困難な状態になってし

まうというわけです。

それでは、どうすれば良いのでしょうか？まずは、診療を依頼してください。そして獣医師が到着するまでに、乳房内の大腸菌群とエンドトキシンを体外に出すための搾乳をおこないます。さらなる症状悪化の原因を取りのぞくことができるのですから、乳汁が出てくなくてもあきらめずに搾乳してください。搾乳後に乳房炎軟膏を使用するならば、殺菌力の強い抗生剤ではなく、細菌の発育をおさえる「オキシテトラサイクリン（OTC）」（写真1）が良いでしょう。また、十分な飲み水を与えて体内のエンドトキシンが薄められるようにしておくことも重要です。あとは、新しい治療方法を勉強した獣医師が適切な治療をすることによって、牛の回復力をサポートします。

今回紹介した方法でも、残念ながら全ての牛を助けることはできません。しかし、死亡または廃用

となってしまう牛の割合は、これまでの方法が約3割だったのに対して、今回の方法では約1割にまで減らすことができました。つまり、10頭中7頭しか助からなかった牛が、9頭までは助けられるようになったということです。

次は、西部事業センター長の高橋俊彦さんにバトンタッチします。

（中部事業センター
標茶家畜診療所

診療課
西川晃豊）

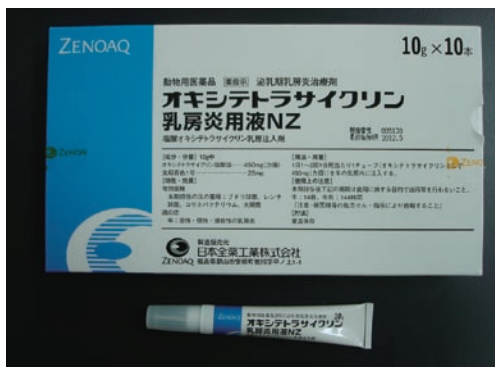


写真1
オキシテトラサイクリンの乳房炎軟膏